

《差し替え・差し込み資料》

添付の差し替え・差し込み資料は、提出済みの第3回変更届別添資料に差し込み・差し替えができるよう、修正・追記等のない前後ページを含めて印刷しております。

具体的な差し替え・差し込みページは次表のとおりです。

《差し替え頁一覧(1/2)》

該当頁	内容
4 頁	末尾に「今後プラントメーカー決定後に計画の詳細が確定した段階で改めて評価書内容を再検証（再検討）した評価書最終版を作成予定である。」を追記
23 頁	「図 2-2.8 削除」を追記
53 頁～55'' 頁	各表中右列「対応」欄に、評価書及び変更届において当該影響を検証している頁を追記 「表-1 (1) 大気質 施設の供用 施設の稼働（煙突排ガス）」、「表-1 (2) 悪臭 施設の供用 煙突排ガス」、「表-1 (2) 土壌 施設の供用 施設の稼働」の「計画の変更による環境影響の変化の見込み」において、“処理方式を「ストーカ方式」に決定したことに伴い、評価書の予測評価に用いた3方式のうち最大着地濃度が最も小さくなることから、煙突排ガスによる環境影響は他の方式よりも小さくなるものと想定されます。”と修正
57 頁	平成 25 年 10 月に自主的な交通量調査を実施した旨と今後の対応について、「③ 自動車交通量等の状況」の表の注釈として追記
138 頁	表 7-1-2.14 下段の“注 2) 表中の番号は、図 7-1-2.3 の図中の番号と一致する。”に下線を追記
139 頁	⑧=⑥+⑦の導出プロセスをわかりやすく示すため、「なお、表中の番号③～⑧は 7-106 頁の図 7-1-2.3 の図中の数字と同じであり、①は 7-102 頁より 67.6dB を用いた。②は 7-41 頁の現地調査結果より 67.7dB を算定した。③及び④は 7-108 頁よりそれぞれ 70.5dB、70.9 dB と算出した。」の記載を表 7-1-2.14 の下段に注釈として追記
143 頁	7 行目“将来の一般交通量による騒音レベルと同程度の値であり、”を削除

《差し替え頁一覧(2/2)》

該当頁	内容
149 頁	8 行目の“さらに、本事業では”の箇所については、環境保全目標を超過することに対して追加で保全措置を検討した意味合いが伝わるよう、“これに対して、本事業では”に修正
151 頁	4 行目の“将来の一般交通量による騒音レベルと同程度の値であり、”を削除 7 行目の“さらに、本事業では”の箇所について、環境保全目標を超過することに対して追加で保全措置を検討した意味合いが伝わるよう、“これに対して、本事業では”に修正
160 頁	表 7-1-3.12 下段の“注) 表中の番号は、図 7-1-2.3 の図中の番号と一致する。”に下線を追記
161 頁	⑧=⑥+⑦の導出プロセスをわかりやすく示すため、「なお、表中の番号③～⑧は図 7-1-3.2 の図中の数字と同じであり、①は 7-134 頁より 37.4dB を用いた。②は 7-41 頁の現地調査結果より 44.0dB を算定した。③及び④は 7-139 頁よりそれぞれ 46.6dB、47.4 dB と算出した。」の記載を表 7-1-3.12 の下段に注釈として記載
186 頁	下 6 行目の変更箇所“合計約 1,200 t”に下線を追記
187 頁	「3. 評価 (2) 評価の結果 ①工事の実施」の本文 2 行目の変更後の廃棄物発生量について、ストーカ方式を採用した値とした。

《差し込み頁一覧》

該当頁	内容
21-①頁、21-②頁 ⇒21 頁の次頁に追加	<p>ストーカ方式を採用したため、評価書 2-14 頁 5 行目の以下の記述を変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変更前：21-①頁 5 行目「現在検討を進めているところである。」 ・変更後：21-②頁 5 行目「検討を進めた結果、ストーカ方式に決定した」
52-①頁、52-②頁 ⇒52 頁の次頁に追加	<p>評価書 6-8 頁の 2 行目に当初 3 方式で進めていた段階での予測評価に係る方針である旨について追記</p>
89-①頁、89-②頁 ⇒89 頁の次頁に追加	<p>評価書 7-68 頁「c. 予測条件 (a)煙突排ガスの諸元」について、現在はストーカ方式の 1 方式に決定した旨を追記</p>
135-①頁、135-②頁 ⇒135 頁の次頁に追加	<p>評価書 7-106 頁 図 7-1-2.3 に記載の予測手順について記載の表現を更新</p>
143-①頁、143-②頁 ⇒143 頁の次頁に追加	<p>評価書 7-123 頁 4 行目の「資料編 (資料 1-3) に示す。」の次に「なお、表 7-1-2.22 及び評価書資料編 (資料 1-3) の図 1-3.1 (1) ～ (3) はストーカ+灰溶融方式のケースについてのものである」と追記</p>
145-①頁、145-②頁 ⇒145 頁の次頁に追加	<p>車両集中への配慮として、追加で保全対策を検討した旨を評価書 7-126 頁「3. 環境保全措置 (1) 工事の実施 ①資材運搬車両の走行に伴う騒音の発生」及び「(2) 施設の存在・供用 ①廃棄物運搬車両等の走行に伴う騒音の発生」の項に追記</p>
157-①頁、157-②頁 ⇒157 頁の次頁に追加	<p>評価書 7-137 頁 図 7-1-3.2 に記載の予測手順について記載の表現を更新</p>
165-①頁、165-②頁 ⇒165 頁の次頁に追加	<p>評価書 7-150 頁 4 行目の「資料編 (資料 1-3) に示す。」の次に「なお、表 7-1-3.20 及び評価書資料編 (資料 1-3) の図 1-3.1 (1) ～ (3) はストーカ+灰溶融方式のケースについてのものである。」と追記</p>
183-①頁～183-④頁 ⇒183 頁の次頁に追加	<p>評価書 7-455 頁「エ. 予測方法」及び「表 7-6-1.1」の工事中に発生する廃棄物発生量算定に用いた原単位の内容についての時点更新、併せてストーカ方式に決定したことによる工場棟建築面積の縮小により、評価書 7-456 頁「オ. 予測結果」及び「表 7-6-1.2」にの工事中の廃棄物発生量を変更する旨を追記</p>